



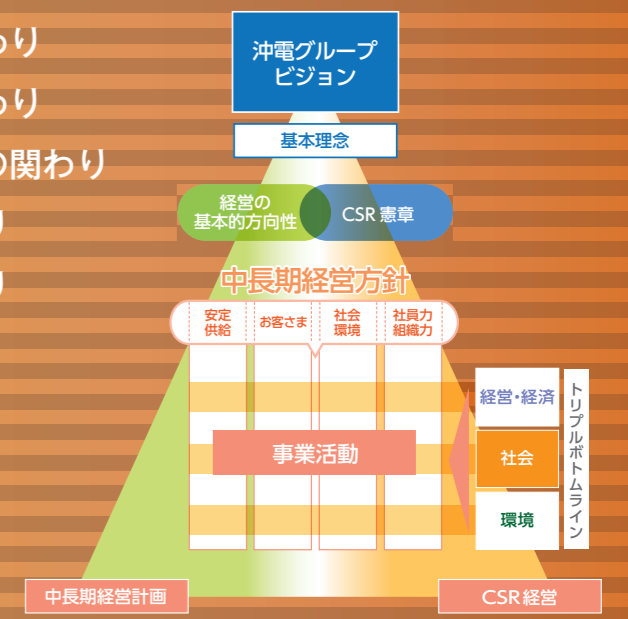
2

Our Society 私たちの社会

私たちは、地域に根ざす公益事業者として、お客さま、地域社会、株主・投資家、取引先、従業員などのステークホルダーの皆さまと、積極的に相互協力しながら、ともに生き、ともに満足できる関係を築いていかなければならないと考えます。

「地域とともに、地域のために」私たちは、ステークホルダーの皆さまのニーズに対して、双方向のコミュニケーションを通して適切にお応えすることにより、企業価値の向上とともに社会の持続的発展に寄与してまいります。

- お客さまとの関わり
- 地域社会との関わり
- 株主・投資家との関わり
- 取引先との関わり
- 従業員との関わり



●お客さまとの関わり（安定供給）

お客さまの暮らしや経済活動を支えていく上で必要不可欠な電気を安定的に供給することが、電気事業者としての原点であり、当社の重要な使命です。地域社会において最も重要なライフラインを担っていることの重要性を強く認識し、良質な電気の安定供給に向けて全力を尽くしてまいります。

燃料調達

●燃料油の調達

燃料油は牧港火力発電所・石川火力発電所および離島の各発電所の燃料として、C重油、A重油、軽油、灯油を主に国内の製油所から調達しています。これら燃料油をオイルタンカーなどの船舶やローリー車、ドラム缶など様々な方法で安定的に調達しています。

●石炭の調達

石炭は具志川火力発電所・金武火力発電所の燃料として主にインドネシアやオーストラリアから調達しています。当社では低硫黄、低灰分でトータルコストの安価な亜瀝青炭を活用し、環境負荷の低減、灰処理場の延命化、燃料費の低減に努めています。また、石炭輸送についても当社専用の大型石炭輸送船「津梁丸」を有効活用することにより、備船マーケットに左右されない安定的・経済的な運賃水準を確保しています。



▲石炭輸送専用船「津梁丸」

●LNGの調達

LNGは吉の浦火力発電所の燃料として、オーストラリアから調達しています。LNGは石油・石炭に比べて、二酸化炭素などの排出が少なく不純物を含まないクリーンな燃料であることから、当社の環境負荷低減の切り札として安定調達に取り組んでいます。



▲吉の浦火力発電所：LNG船による受入

●設備の構築および運用保全

供給信頼度の維持や環境保全へ適切に対処すべく、発電設備については日常管理、継続的な余寿命評価および運用状況を勘案しながら、長期的な視点に立った効率的な設備の構築を図っています。日常の巡視点検による不具合の早期発見・早期処置により事故の未然防止を図りつつ安全かつ環境に配慮した運転を継続しています。

また、発電設備の定期検査については、法令に基づいた品質管理システムを構築し、検査の品質に関する要領書（手順書）を定め、検査計画、検査方法、検査記録、是正処置の作成や承認の手続きを明確化しています。これらの活動を確実に実施することで、発電設備の信頼性を維持し、電力の安定供給に努めています。

さらに経年設備については、長寿命化対策工事や、重点的な予防保全ならびに効果的な余寿命診断などに基づく必要な時期での更新を行う高経年化対策を実施することで長期安定運用を可能にし、電力の安定供給の一翼を担っています。

●不具合に対する対応

発電設備の不具合に対する対応（原因特定、処置方法、再発防止対策、関係箇所への周知など）についてマニュアル化し、発電設備の計画外停止の低減に努めています。

また、同業他社からの不具合情報についてもマニュアルに基づき、速やかに周知し関連する事項については早急に対応しています。なお、不具合により発電設備の運転を停止して補修する場合は、供給力が確保されていることを確認したうえで実施しています。

社員の声 安全な除却工事を目指して

私の所属する除却工事は、平成26年6月をもって廃止となった牧港火力5/8号機除却工事計画への参画を目的に平成26年10月に立ち上げた工事所です。

私の職務は、積算、最適工事の計画、各諸官庁との調整、現場管理等の業務です。すでに平成27年6月に竣工した「牧港火力5～8号機煙道及び電気集塵装置撤去工事」、現在施工中の「牧港火力5～8号機タービ

ン・発電機油系統洗浄及び撤去工事」は、平成28年10月中旬の工事竣工を目指します。また、稼働中ユニット（9号機）運用に係る除却付帯工事の計画を策定し、速やかに工事着手し本体除却工事に支障をきたさないよう心がけています。当社初の除却工事所員としての使命感を持ち、現場では「ケガをしない、させない」をモットーに安全最優先の徹底に努めております。



沖縄プラント工業(株) 火力部 牧港火力5/8号機 除却工事所 比嘉 武志

送電・変電設備

●設備の構築

発電した電気をお客さまのもとへ届けるためには送電線、変電所などの流通設備を経由する必要があります。そのため、地域の需要動向および供給信頼度を考慮しつつ、将来的にも電力の安定供給が確保できるよう、発電設備と流通設備の一体的、効率的な増強を推進しています。

●電力系統の運用・保全

電気は常に消費量と発生量のバランスをとる必要があります。当社では、刻々と変化する電力需要に対し、お客さまの電気使用量の想定、各発電所の出力調整、送電線・変圧器を通過する電力潮流の調整などを行い、安定した良質な電気を24時間コントロールしお届けしています。

また、送電線や変電所が常に正常に機能するために、定期的に巡視・点検を行っています。

●自然災害などへの対策

雷に対する供給信頼性と系統の安定運用を確保するための避雷装置設置などの設備工事を着実に推進するとともに、自然災害などにより一部の送電線路が停止しても停電とならないよう線路の2回線化や2ルート化を図っています。さらに、停電が発生した場合の停電時間短縮のため、送電線復旧の自動化を図り、電力の安定供給に努めています。

また、実態に即した防災訓練を実施し、社員ならびに関係協力会社も含め、災害時の被災設備早期復旧に向け取り組んでいます。

●電力技術の維持・向上

現場業務の委託化、労務構成の急速な若年化などによる現場実践機会の減少などにより、現場技術の習得が年々困難な状況になっています。課題解決のために、若年社員や新入・転入社員への研修・OJTの充実を図っているほか、技術訓練施設や給電訓練用シミュレータを活用した訓練を行い、保守・運用の現場技術の維持・継承を図っています。

社員の声

燃料油の安定調達に向けて



資材部 燃料室 山元 圭子

私は、燃料油調達を担当しており、調達先の配送状況や当社発電所の運用やタンク在庫及び点検状況等を日々確認し、関係者と密に連絡を取りあい、燃料を調達しています。燃料受入は気象海象の影響に大きく左右されることから、台風シーズンに備えた在庫管理を徹底し、調達には細心の注意を払っています。燃料室では、電力の安定供給に必要な不可欠な燃料を本島・離島の隅々まで確実に送り届けるという使命感を持って業務に取り組んでいます。

発電設備

●電源開発計画

電力の安定供給を前提として、需要想定を基に、供給予備力、運用性、経済性、エネルギーセキュリティ、地球環境問題などを総合的に勘案し、電源のベストミックスとなるよう、適切な時期に適切な機種・容量の電源開発を検討していきます。

火力発電における各電源の特徴

火力発電には、燃料調達の安定性や経済性に優れる石炭機、環境性に優れるLNG機、また、出力変動に優れる石油機があります。電源開発や発電計画の策定にあたっては、電力の安定供給確保を前提として、これらの特徴を総合的に勘案し、電源のベストミックスを図っています。

	石炭機	LNG機	石油機
安定供給	地政学的リスクが化石燃料の中で最も低い	石油に比べて地政学的リスクが相対的に低い	地政学的リスクが大きい
経済性	熱量あたりの単価が最も安い	石炭に比べて熱量あたりの単価が割高	熱量あたりの単価が最も高い
環境性	温室効果ガスの排出量が多い	化石燃料の中では温室効果ガスの排出量が最少	温室効果ガスの排出量が石炭に次いで多い
運転特性	緩やかな出力変動が可能	電力需要の変動に応じた出力変動が可能	電力需要の変動に応じた出力変動が容易

社員の声

送電線工事



私は、電力設備である送電線の鉄塔基礎工事、鉄塔組立工事、架線工事の現場施工管理を行っています。

送電線は、電力を遠くまで輸送するために必要不可欠な設備であり、電力の安定供給に一翼を担う業務に携わることができることに、とてもやりがいを感じています。又、現場は高所作業なので安全を最優先に取り組んでいます。現在は、若手社員の育成、技術継承にも重点的に取り組んでいます。

(株)沖電課 建設部 送電電線 澤底 富雄

配電設備

●設備の構築・運用・保全

面的に広がり、数が膨大である配電設備の供給信頼度は、当社の地理的性質上、台風の襲来に大きく左右されることから、過去の被害状況などを考慮し、自然災害に配慮した設備構築に取り組んでいます。

また、配電設備は、定期的の実施している線路巡視や点検により、異常箇所の早期発見に努め、異常箇所を発見した場合は速やかに改修工事を行っており、事故の未然防止に努めています。

事故により停電となった場合でも、**配電自動化システム**※により事故停電の範囲を最小限に留めるとともに、早期の復旧が可能となっています。

また、配電自動化システムで電圧などの品質の維持や、より効果的な設備の構築計画業務に役立て、お客さまへの安定的な電力供給に努めています。

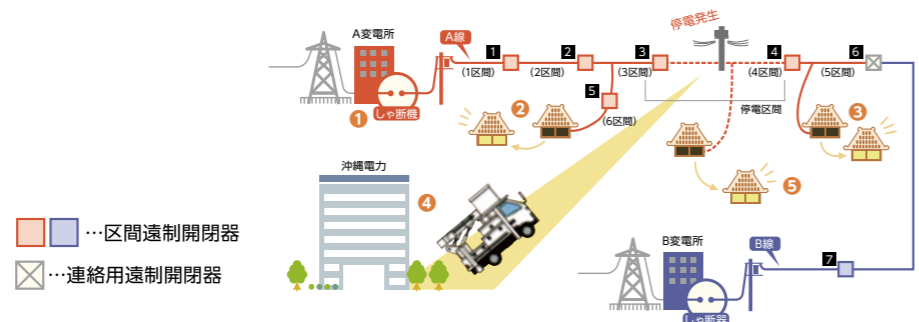
※配電自動化システムとは

各支店に設置したコンピュータと電柱に取り付けた遠制御装置とを通信ケーブルで結び、電柱上の開閉器の遠方操作や配電線の電圧、電流などの情報を自動収集することを可能としたシステムです。

配電線を自動化することで台風・雷などによる事故停電の早期復旧や、より効果的な設備の運用管理に役立て、お客さまへ「良質で安定的」な電力供給を目指しています。

●配電線事故処理の概要

配電線事故が発生すると、配電自動化システムにより事故区間を検出して、事故区間以外は自動的に電気を送ります。



社員の声

信頼性の高い設備構築を目指して

那覇支店配電サービスグループの設計係として、架空配電設備の設計・保守業務に携わっています。

電力需要に応える為の設備構築、事故未然防止を目的とした線路巡回や改修等、業務は多岐にわたります。お客さまへ確実・迅速に電気をお届けする為には、設備への正確な理解と判断が求められ、社員一人ひとりが強い目的意識を持って取り組んでいます。

これからも安定した質の高い電気を地域へお届けできるよう、より良い設備構築に尽力してまいります。



那覇支店配電サービスグループ
うえち たかよし
上地 孝佳

離島への安定供給

●離島への電力供給について

当社の離島電気事業は、沖縄本島を除く37の有人離島に電気を供給しています。沖縄本島から海底ケーブルで電気を供給している島々を除く10の離島にそれぞれ独立系統の内燃力発電所を設置し、24時間絶やさず電気を供給し、また沖縄本島のお客さまと同じ電気料金という一律化を行い、ユニバーサルサービスに努めています。

しかしながら、広大な海域に点在する10の島に発電所を設置しなければならない遠隔性と島嶼なるが故に石炭火力発電等の大型電源の導入が難しいという規模の狭小性という構造的な課題を抱えています。

また、離島の内燃力発電所では発電用燃料の全てを石油に依存した発電であるため、原油価格が高騰した場合の影響が大きいことや、離島のため燃料の配送費もかさむなど、これらの不利性は販売コストに顕著に現れています。このようなことから離島電気事業のより効率的な運用が重要な課題の一つとなっています。

●離島海底ケーブル

島内に発電所を設置するよりも低コストでの送電が可能な離島については、海底ケーブルを敷設しています。

2016年3月に、渡嘉敷島(慶良間諸島)への海底ケーブル化工事が完了し、運用を開始しました。

これにより、沖縄本島周辺離島13ヶ所、宮古島周辺離島3ヶ所および石垣島周辺離島10ヶ所に総延長約240kmにおよぶ海底ケーブルを敷設し、電力供給を行っています。

今後もケーブル敷設コストや技術開発の動向を勘案し、海底ケーブル化を推進していきます。

●移動用発電設備(ガスタービン・内燃力)について

当社では、移動用発電設備(ガスタービン・内燃力)を各種複数台保有しており、離島における発電設備の故障・事故時など緊急を要する場合には、移動用発電設備を島内に配備し、電力需要を賄える体制を整えています。

●再生可能エネルギーについて

離島電気事業においては、燃料使用量の削減および二酸化炭素排出量の低減を図るため、風力や太陽光といった再生可能エネルギー発電設備を導入してきました。

与那国島では2001年度に風車600kW×2基を導入し、2015年の台風で大きな被害を受け1基を廃止したものの、良好な風況のもと、燃料使用量の削減・二酸化炭素排出量低減に大きく寄与しています。

また、日本初となる可倒式風力発電設備を2008年度に波照間島へ245kW×2基、2009年度に南大東島へ245kW×2基、2014年度に粟国島へ245kW×1基、2015年度に多良間島へ

245kW×2基の計7基導入し、課題であった台風被害などによる補修費用の低減や停止期間の短縮について有効であることを確認しています。

その他、宮古島への大規模太陽光実証研究設備や北大東・多良間・与那国への太陽光実証研究設備を導入するなど、多くの離島で再生可能エネルギーを導入しています。

社員の声

与那国島の安定供給を目指して

昨年3月に与那国電業所へ赴任して、1年が経ちました。台風被害の多い島で、昨年9月に襲来した台風21号は、最大瞬間風速81.1mを記録し、与那国島観測史上1位を更新し、全国でも4番目に大きな台風として記録されました。

島は日本の最西端に位置し、周囲を海に囲まれているため、塩害が酷く設備の劣化も早い為、屋外設備は腐食箇所に注意し、巡視を行っています。これからも与那国島の安定供給の為、発電設備・配電設備の維持管理に努めて参ります。



離島カンパニー八重山支店
発電課与那国電業所
たいら まさよし
平良 雅慶



▲多良間可倒式風力発電設備・傾倒時



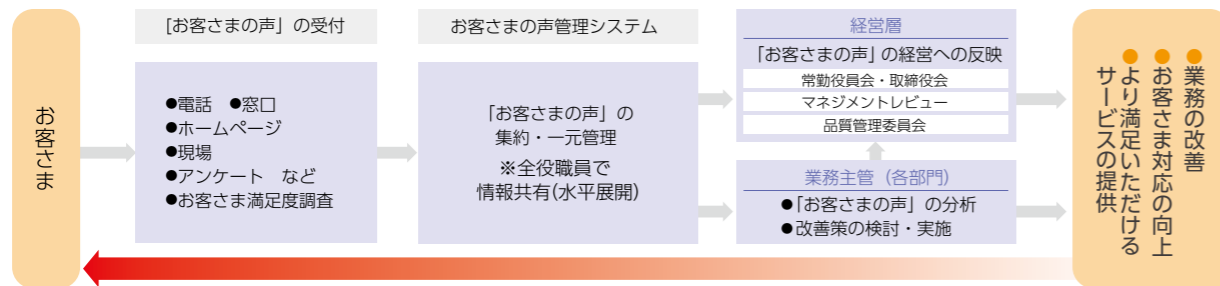
▲渡嘉敷海底ケーブル敷設状況

▲宮古島メガソーラー実証研究設備

●お客さまとの関わり(お客さまの満足度向上)

当社は、お客さま一人ひとりの声を真摯に受け止め、よりお客さまに満足いただけるサービスの提供を目指しています。

●「お客さまの声」の活用(イメージ図)

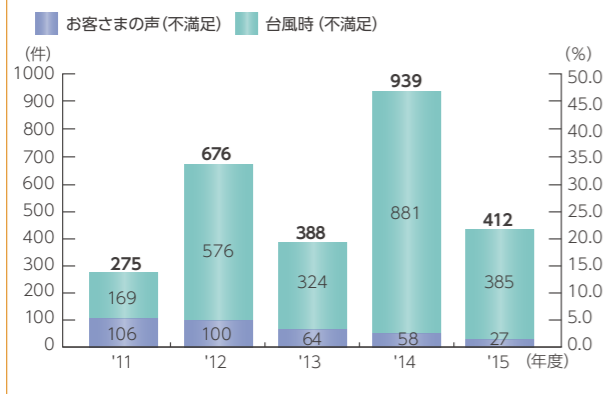


「お客さまの声」の活用

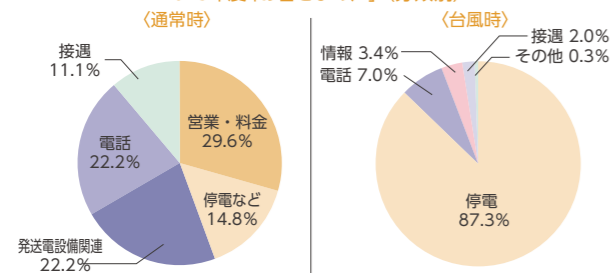
お客さまから寄せられる貴重なご意見やご要望を、全役職員が情報共有できる社内システムに登録し、「お客さまの声」をもとにお客さまの視点に立った業務改善・サービスの提供に取り組んでいます。

また、定期的に集約・分析した「お客さまの声」については、役員を中心に組織される会議体で報告し、情報の共有や業務改善策の評価を行うなど、経営層が率先して「お客さまの声」を経営に活かす取り組みを進めています。

お客さまの声受付状況(推移)



2015年度「お客さまの声」(分類別)



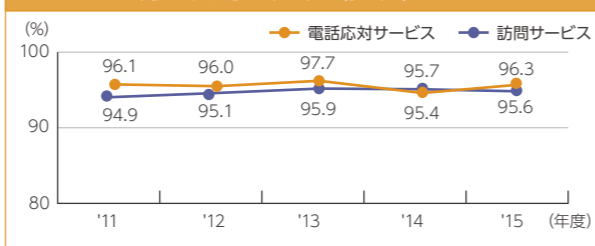
お客さま満足度調査

引越しの手続きや停電・故障受付をさせていただいたお客さまを対象に、電話係員や訪問係員の対応内容や接客マナーなどに関するアンケート調査(郵送)を実施し、お客さまサービスの一層の向上および業務の改善に取り組んでいます。

お客さまからの回答内容は分析・評価を行い、役員会などで報告しております。

また、調査報告書を、社内データベースへ登録することで、全役職員へのフィードバックを行っており、報告書では、お客さま満足度の経年的推移や支店毎に比較した調査結果を打ち出すことで、各部門・支店へ業務改善を促すものとなっております。

お客さま満足度調査結果(推移)



▲コールセンターでの対応の様子

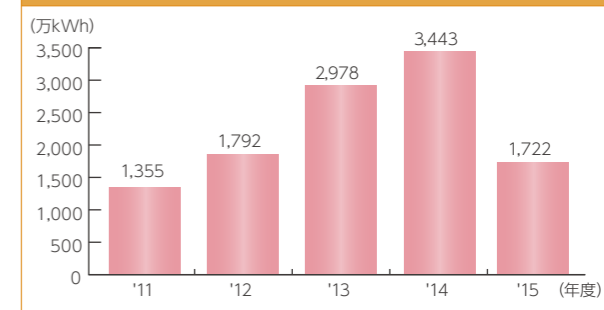
法人お客さまへのきめ細かなサービスのご提供

お客さまへの訪問活動を通して、お客さまニーズ・動向の的確な把握・分析に努めています。

これらの情報を基に、お客さまに合った最適な契約種別や電化機器のご提案、省エネ情報のご提供など、お客さまの立場に立った的確なコンサルティングを行うとともに、フォローアップ活動の充実を図り、お客さまの満足度向上に努めています。

Webトップ ▶ サービス・ビジネス情報

業務用電化機器の獲得販売電力量(kWh)推移



社員の声

お客さまニーズの探求



ソリューション営業部 法人エネルギーグループ 普天間 広樹

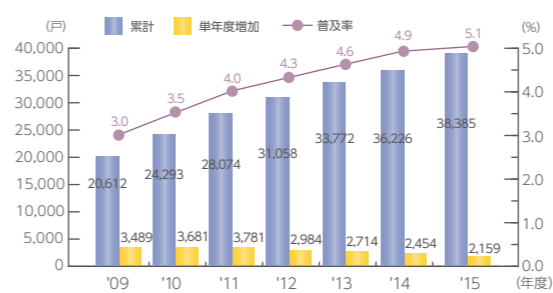
私は法人のお客さまを対象に電化提案活動を行っています。日々の訪問活動を通じて、お客さまの声(課題)に対して真摯に耳を傾け、共に課題を解決出来るように取り組んでいます。訪問の際は、担当の方から幹部の方まで幅広く接する機会があり、都度お客さまから頂ける貴重なお話が楽しみです。時折シビアなご意見を頂くこともありますが、お客さまに沖縄電力を選んでも頂けるよう、今後も丁寧に電化提案活動を行ってまいります。

豊かで快適な暮らしのご提案

火を使わず鍋そのものを発熱させる「IHクッキングヒーター」と、空気の熱を利用してお湯を沸かす給湯機「エコキュート」を採用したオール電化住宅が年々増えています。当社では、オール電化専用Webサイト「www.kaeru.tv」やパンフレットを利用した情報提供、お客さまへのコンサルティング活動を通してオール電化住宅のご提案を行っています。

Webトップ ▶ セイカツをカエル。オール電化

オール電化住宅戸数、普及率の推移



導入事例

オール電化の料金プランで光熱費を押さえる工夫ができるから助かってます！
沖縄市在住 新垣さま



ご実家がオール電化住宅という奥さま。結婚し家を建てる時は、絶対オール電化にしよう決めていたそうです。「IHはとにかくお掃除がラクだし、炎がないので暑苦しくない。よく焼き魚や煮込み料理を作りますが、温度設定とタイマー設定をするだけなので簡単。ほったらかし料理です。」と笑顔がこぼれます。在宅でお仕事をしながら、安い時間帯に電気を使う工夫をされているしっかりもの奥さま。節約した分は娘さんのお稽古ごとに充てるのだそうです。

電気料金改定の推移

当社は、効率化努力の成果を最大限に反映し、1988年以降、12回(暫定3回※を含む)にわたる電気料金の見直しを行ってまいりました。

吉の浦火力発電所の運転開始に伴い、長期的な供給力とエネルギーセキュリティの向上、そして地球温暖化対策の有効な手段を確保することができました。

一方で、収支面においては、電力需要の伸びが鈍化していることや減価償却費が依然高い水準で推移することから、極めて厳しい収支状況が見込まれます。

当社を取り巻く経営環境は厳しい状況ではございますが、より一層効率化への取り組みを推進し、「財務体質の強化」、「本土並み電気料金水準の確保」へ向けて更なるコスト低減に努めてまいります。

電気料金改定率の推移

年月	1988年1月	1989年4月	1996年1月	1998年2月	2000年10月
改定率	▲19.62%	▲2.79%	▲5.96%	▲3.72%	▲3.78%

年月	2002年10月	2005年7月	2006年7月	2008年9月
改定率	▲5.79%	▲3.27%	▲3.24%	▲0.45%

※暫定引き下げ
1993年11月：▲0.52円/kWh、1994年10月：▲0.52円/kWh、1995年7月：▲0.56円/kWh

社員の声

お客さまに寄り添った、信頼されるコールセンターを目指して

ファーストリングテクノロジー(株) ソリューション事業本部 コンタクトセンター部 沖縄コールセンター
おやかわ りょう 親川 良



私たち沖縄電力コールセンターは、24時間365日「丁寧に!正確に!迅速に!」を合言葉にお客さまの立場に立ち、お客さまに寄り添った電話対応を心掛けています。お客さまと真摯に向き合い、分かりやすい対応で「満足、安心、親しみ」を感じて頂けるよう日々対応品質の向上に取り組んでいます。今後もお客さまの大切な声をお預かりする窓口として、より一層お客さまから信頼されるコールセンターを目指していきます。

● 地域社会との関わり

コーポレートスローガンである「地域とともに、地域のために」を経営の中心に据え、さまざまな社会貢献活動を積極的に展開しています。

地域振興活動

地域経済・産業の発展に寄与することを目的に、県内外の経済界・産業界の諸団体と連携し、産業振興に関する提言・支援を行うとともに、産・官・学・民の調査機関などとの共同研究の実施や、調査研究機能の充実強化への協力、スタッフ派遣、各種団体への寄付・協賛など、地域経済・産業振興、技術開発に取り組んでいます。



▲産業教育フェア 協賛金贈呈式

● 自主企画テレビ番組(ウチナー紀聞)放送

沖縄の文化・歴史・自然など地域に根ざした題材をとりあげるテレビ番組「ウチナー紀聞」の制作企画・番組提供を通じて、地域振興を図るとともに、移り変わる沖縄の風物を時の記録として伝えていきます。

1997年4月の放送開始から19年に亘り、802本の番組を放送しており(2016年4月まで)、県内有数の長寿番組となっています。



▲毎週日曜日11:00~11:30 琉球放送(RBC)にて放送

Webトップ ▶ おきでん百添アワー ウチナー紀聞

視聴者の声

- ・ウチナー紀聞を毎週楽しく見えています。知っている沖縄、知らなかった沖縄がわかり、勉強になります。また、オープニングの音楽もワクワクして聞かれています。
- ・家族で毎週楽しみに見えています。沖縄の歴史を知り、沖縄の未来へつなぐこの番組は、ぜひ、小中学校でも活用して欲しいと思います。これからの番組にも期待しています。

社員の声

海岸の清掃活動に参加して

いげい 労務給与グループ 伊藝 ひかり



おきでんグループボランティア互助会が主催する、海岸の清掃活動に娘と二人で参加しました。遠目にはきれいな海岸沿いでしたが、いざ清掃していくとビニールの切れ端や空き缶、ペットボトルなどゴミが散乱している現状に驚きました。普段の生活で環境問題を意識する機会は少ないですが、娘との良いコミュニケーションの場となり、参加してとても良かったです。海岸に出没した猫たちにも大変癒されました。

社会福祉活動

当社では、沖縄県内の社会福祉団体への寄付や各種福祉行事への参加、支援を通じて地域社会福祉の振興に取り組んでいます。また、沖電グループ各社役員職員で構成する「おきでんグループボランティア互助会」や当社のシンボルスポートである沖縄電力硬式野球部を通じた活動も積極的に行っています。



▲宜野湾マリーナ奥防波堤にて行われた清掃活動

おきでんグループボランティア互助会 (2015年実績)

- 団体清掃活動
 - ・ 宜野湾市 宜野湾マリーナ奥防波堤 (会員およびその家族約60名が参加)
- 寄付活動
 - ・ 沖縄県社会福祉協議会
 - ・ 浦添市社会福祉協議会
 - ・ 県内児童養護施設 (8施設)
 - ・ NPO法人 MESHサポート (グループサポーター加入)
 - ・ 東日本大震災支援団体
 - ・ 児童養護施設なごみ学習支援 (教材の寄付)
 - ・ 特定非営利団体NPO法人国境なき医師団
 - ・ ネパール震災被害に対する義援金
 - ・ 与那国町台風21号被害に対する義援金
 - ・ 台湾地震被害に対する義援金

● 収集ボランティア活動

- ・ 那覇市社会福祉協議会へ在宅障害者支援として、使用済切手、プリペイドカード、書き損じ・未使用ハガキ、切手を預託。
- ・ NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄へ食料を寄付。
- ・ 児童養護施設 島添の丘にバザー物品として、食器・本・衣類・靴・生活用品などを贈呈。

福祉団体の声 児童養護施設 なごみ

今年も貴「ボランティア互助会」より温かい浄財を頂き心より感謝申し上げます子ども達の社会自立に活用させていただきます。



本年度一人の卒園予定者が運転免許の取得、就活運動を模索しながら頑張っている所であります。これも偏に皆様方の温かいご支援、ご協力の賜だと心よりお礼申し上げます。

● ファミリーハウス「がじゅまるの家」

2008年6月に、沖電グループ百添会の設立10周年記念事業として、入院患者の付き添い家族用滞在施設「ファミリーハウスがじゅまるの家」を沖縄県へ寄贈しました。



▲ファミリーハウス「がじゅまるの家」

当該施設は、離島や遠隔地に住む子どもたちが、高度な医療センターで治療を受ける際に、付き添いのご家族の方々が低料金で快適にご利用いただける滞在施設です。

毎年11月には施設構内の清掃活動を行っており、施設利用者から感謝のお言葉をいただいています。今後も清掃活動を通じて当該施設の運営支援に取り組んでまいります。



▲ファミリーハウス「がじゅまるの家」施設の清掃の様子

地域社会との交流

県内の各市町村で催される祭典や文化活動、スポーツ交流行事への参加や協賛を通じて、地域社会との交流を図るとともに、地域社会の活性化に貢献します。



▲糸満ハーレー

● おきでん対話旬間

日頃お世話になっている地域の皆さまへ感謝の気持ちをお伝えすることを目的として、1978年から『おきでん対話旬間』を毎年開催しています。

2015年11月1日~10日には、「これからも ずっと あなたとともに」をテーマに、県内各地で「ふれあい活動」「地域奉仕活動」「メッセージ活動」「スポーツ交流活動」を行い、お客さまとのコミュニケーションを図りました。

■ おきでん対話旬間の取り組み内容 (2015年度)

	活動内容	イベント数
ふれあい活動	お客さま訪問 婦人連合会との懇談会など	15イベント
地域奉仕活動	清掃活動、電気設備無料点検など	31イベント
メッセージ活動	発電設備見学会 電気に関する相談窓口など	8イベント
スポーツ交流活動	グラウンドゴルフ大会 ドッジボール大会など	12イベント



▲スポーツ交流活動(ドッジボール大会)



▲地域奉仕活動(電気設備無料点検)

地域の芸術・文化活動の振興

県内の各種芸術・文化活動への支援や当社主催イベント「おきでんシュガーホール新人演奏会オーディション」、「おきでんひかりの風景デジタル写真コンテスト」の開催を通じて、沖縄県内の芸術・文化の振興に努めています。

おきでんシュガーホール新人演奏会オーディション

1994年より将来性において優れた音楽家を発掘し育成すること及び地域の音楽文化の振興、国際交流の推進に寄与することを目的に南城市、沖縄タイムス社と共同で開催し、2015年度で22回を迎えました。国内外より多数の応募があり、実力本位の国際的なオーディションとなっています。

南城市内の小学生を対象にした「南城市内小学校めぐり出前授業」では、歴代の一部受賞者による生演奏、子どもたちの楽器体験など、音楽を身近に感じる出前授業を通して地域貢献活動に取り組んでいます。



▲出前授業の様子

Webトップ ▶ 会社情報 ▶ 主催イベント
▶ シュガーホール新人演奏会



▲おきでんシュガーホール新人演奏会

受賞者の声

篠原 拓也さん

第22回グランプリ受賞者：弦楽器部門 チェロ

この度はシュガーホールという素晴らしいホールで演奏する機会を与えていただき、なおかつグランプリという賞までいただけて光栄に思うとともに、心の底から感謝しております。

私のような音楽大学を卒業したばかりの演奏家にとっては、このオーディションに向けて必死に練習するという、そして沖縄まで来て気候の違いや文化の違いを感じながら演奏するという、それ自体がとても素晴らしい体験になりました。

5月の新人演奏会でお客さんとともに良い時間を過ごすために、そしてグランプリという賞に少しでも見合うように、これからもより一層精進したいと思います。

おきでん「ひかりの風景」デジタル写真コンテスト

「電気のひかり」が持つ“あたたかさ”、“華やかさ”や“安心感”に触れていただけるよう、どなたでもお気軽にご参加いただけるデジタル写真コンテストを開催しています。第8回（2015年度）応募作品数：1,012作品

Webトップ ▶ 会社情報 ▶ 主催イベント
▶ 「ひかりの風景」デジタル写真コンテスト

▼「ひかりの風景」デジタル写真コンテスト入賞作品



大賞

受賞者の声

川上 卓也さん

「起こさないように」

今回、3部門エントリーをさせていただいた中で、いちばん自信のあった人物写真で受賞できたことに加え、写真を撮り始めて4年目でこのような賞を初めていただき大変うれしく思っています。私以外に17名の方が受賞されていますが、こういったイベントを機に、「沖縄芸能」以外の「芸術」という側面でも沖縄が発展できるひとつのきっかけになればと思います。主催の沖縄電力、審査員や関係者の皆さまに感謝します。



優秀賞

〈暮らし〉
「眠りの前」
大城 未紗子さん



優秀賞

〈夜景〉
「ゆいレール」
當山 剛さん



優秀賞

〈沖縄〉
「ウークイ」
永山 直樹さん



優秀賞

〈ジュニア部門〉
「眼差し」
崎浜 悠海さん

学術・教育・スポーツ

沖縄の未来を担う子どもたちに学ぶことの楽しさ、創造する心を育んでもらえるよう学術・教育関連行事への支援を行っています。また、電気の仕組みが楽しく学べる電気科学館や発電所見学、親子工作教室などさまざまな教育の機会を提供しています。

沖縄青少年科学作品展

青少年の科学に対する関心と興味を喚起し、沖縄県の科学教育の振興と人材育成に寄与することを目的に1979年から開催しており、2015年度で38回を迎えました。

会場では県知事賞をはじめとする全入賞作品の表彰・展示のほか、上位入賞者によるポスターセッションやチャレンジ実験コーナー、科学実験ステージショー、科学教室、エネルギー・環境教育等を実施しており、楽しく科学に触れていただけるイベントとなっています。

毎年多くのお客さまが来場され、好評を得ています。



▲沖縄青少年科学作品展「ポスターセッション」の様子

Webトップ ▶ 会社情報 ▶ 主催イベント
▶ 沖縄青少年科学作品展

児童・生徒の声

- ・受賞者として参加しましたが、よりレベルの高い作品を見ることができてよかった。
- ・展示されている作品がとても参考になってよかった。

保護者の声

- ・未来の科学者の卵が沖縄にこんなに沢山いることを知る素晴らしい企画だと思います。
- ・子供たちの未来への夢へ力を添えてくれる役割が大きいと思います。うちの子も他の人の作品展示に触発されて自由研究の楽しさに目覚めました。

地域社会との関わり(インターンシップ)

「地域とともに、地域のために」をコーポレート・スローガンとする当社では、次世代人材の育成支援を目的に、インターンシップを実施しております。

当社でインターンシップを体験することにより、学生が具体的な仕事のイメージを持ち、自己の職務適性や将来設計について考える等、学習意欲向上につながるきっかけとなることを期待しています。



▲吉の浦火力発電所での実習風景

2015年度参加者実績：33名

親子工作教室

貝志川火力発電所では、電気事業とエネルギーの理解や青少年への電気科学の啓蒙として、毎年「親子科学教室」「親子工作教室」を開催しています。また、工作教室以外にも、電気科学館の見学や施設の見学会を行っており、毎年多くの親子に参加していただいています。

今後も、親子で楽しめるイベントを企画し地域の皆さまや、子どもたちとの交流を深めていきます。



▲親子工作教室の様子

2015年度「親子科学教室」「親子工作教室」などイベント参加者実績：1,549名

Webトップ ▶ 電気について知る
▶ 電気科学館 ▶ イベントのご案内

スポーツ振興

「おきでん旗争奪沖縄県学童軟式野球大会」などの次世代向けスポーツイベントへの協賛をはじめ、「NAHAマラソン」など幅広い世代が参加できるスポーツイベントへの協賛・ボランティア参加を通じて、県内スポーツの振興発展を支援しています。

また、沖縄電力硬式野球部では、現役野球部員による小学生を対象とした少年野球教室の開催や講演活動などを通じて、青少年の健全育成および県内球界の技術向上、振興発展に取り組んでいます。



▲おきでん旗争奪沖縄県学童軟式野球大会

次世代層へのエネルギー・環境教育に関する出前授業

エネルギー産業に携わる一企業として、次世代層へのエネルギーに対する理解促進のため、教育機関や自治体からの依頼を受け、県内の小学校へエネルギーや環境に関する出前授業を実施しています。



▲エネルギー・環境教育出前授業の様子

国際貢献活動

2015年度は、一般社団法人海外電力調査会を通して独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター(JICA沖縄)より受託しているJICA課題別研修「配電網整備」コース(2003年度より受託開始)ならびに海外電力調査会より受託しているアセアン研修(2004年度より受託開始)を実施しました。



JICA課題別研修「配電網整備」コース

●目的

開発途上国の電力会社などで配電業務の指導的役割を果たしている技術者に対して、日本の配電網整備技術を提供し、研修員が自国の配電設備を効率的に整備するための一助とすること。

●受け入れ実績(2015年度)

9カ国(カーボヴェルデ、ジャマイカ、ヨルダン、キリバス共和国、マーシャル諸島共和国、ミャンマー、パプアニューギニア、サモア独立国、南スーダン)より、11名の研修員を受け入れ。

●期間

2015年5月18日から6月18日

●研修内容

送電設備の計画・保守・運用に関する研修や離島における電力供給、新エネルギー研究の概要など。

研修員の出身国では、地方電化の推進への対応、電力損失の低減、配電網を効率的に整備するためのノウハウなどを必要としており、本研修を通して、当社の送配電技術が研修員の国々における効率的な設備の構築・運用に貢献しています。



▲JICA課題別研修「配電網整備」コース

アセアン研修

一般社団法人海外電力調査会がアセアン諸国と締結している人材育成に係る協定に基づき実施しているものです。2015年9月30日から10月6日の日程で、「送電線と変電所の設計およびリレー保護」をテーマとしてラオス、カンボジアの2カ国の電力会社の送変電関連の技術者6名の研修員を受け入れました。

研修員の声



- ・現場視察の際、電力系統運用のための監視制御システムを使用して、無人変電所を遠方監視していることに大変驚いた。
- ・高圧地中送電線敷設の高い技術力に感心した。
- ・地中送電線と架空送電線の接続方法は興味深かった。
- ・講師の皆さんは、研修員からの質問にも丁寧に答えて頂き、フレンドリーで親切だった。

●グループ各社の取り組み

沖電グループ各社においても、さまざまな社会貢献活動やイベントを実施するとともに、地域のイベントに積極的に参加しています。

■(株)沖電工



スポーツを通じて子どもたちの健全な心身の育成と技術力の向上を目的に「沖電工杯沖縄県少年剣道練成大会」、「沖電工杯沖縄県サッカー祭り」に特別協賛しています。

■沖縄プラント工業(株)



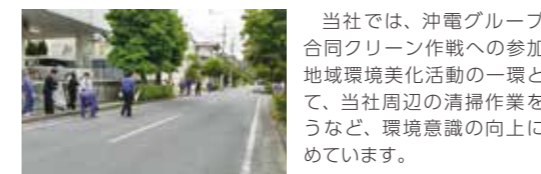
沖縄県内においてハンドボールに励む小学生が、日ごろ練習した成果を競い合い相互の交流を図り、本県スポーツ競技力向上と青少年の健全育成ならびに健康・体力の保持増進に資する事を目的に、2010年から沖縄県小学生ハンドボール大会へ協賛し「おきぶら杯沖縄県小学生ハンドボール大会」を開催しました。

■沖電開発(株)



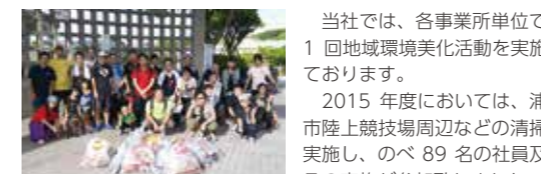
社会福祉活動の一環として毎年開催される「浦添市ボランティアまつり」、「浦添市障がい児・者ふれあいクリスマス会」(浦添市、浦添市社会福祉協議会主催)にて「サンゴ水槽」の展示、「タッチプール」の実施により、浦添市内の障がい児・者と社員のふれあい交流を行っています。

■沖縄新エネ開発(株)



当社では、沖電グループの合同クリーン作戦への参加や地域環境美化活動の一環として、当社周辺の清掃作業を行うなど、環境意識の向上に努めています。

■ファーストライディングテクノロジー(株)



当社では、各事業所単位で毎年1回地域環境美化活動を実施しております。2015年度においては、浦添市陸上競技場周辺などの清掃を実施し、のべ89名の社員及びその家族が参加致しました。

■沖電企業(株)



地域貢献活動の一環として本社周辺および牧港川沿いの清掃活動を定期的に行っております。また、7月開催のてだこハッピー、2月開催のてだこウォークなど地域イベントへ積極的に参加しています。

■沖縄電機工業(株)



毎月1回、社屋前歩道の清掃活動に取り組んでいます。社屋前の歩道は、地域のウォーキングコースとして利用され、多くの方に喜んでいただいています。また、毎年2月のおきなわマラソン大会では、給水ボランティア活動を行い、地域イベントへ積極的に参加しています。

■(株)沖電エネテック



2015年6月8日から6月19日の日程で、太陽光発電の適切な導入手法の習得と、自国での実践を促すことを目的とした、「マイクログリッドによる再生可能エネルギー普及のための計画担当者研修」を実施し、11名(9カ国)の研修員が参加しました。

■沖電グローバルシステムズ(株)



当社では、社員の環境意識の向上と地域貢献を目的に毎年6月の「環境月間」に併せて全従業員で事務所周辺の清掃活動を行っています。2015年度は二カ所の事務所を合わせて従業員67名が参加しました。

● 株主・投資家との関わり

当社は、効率的な事業経営を実践し、持続的成長を目指すとともに、適時適切な情報開示に努めます。

株主総会

当社は、経営に関わる重要な事項について株主の皆さまに決議いただくため、毎年6月に定時株主総会を開催しています。株主総会での議決権の行使は、基準日（3月末時点）において株主名簿に記載されている株主の方々が対象となります。当日ご出席いただけない株主の方々には、郵送、またはインターネットによる議決権行使が可能となっています。



社員の声

株主・投資家の皆さまとの対話を大切に

財務課では、決算説明会・県内個人投資家向け会社説明会の運営など、さまざまなIR活動を行っております。色々な視点から当社を見ている株主・投資家の皆さまのご質問・ご意見には、ハッと気付かされることもしばしば。今後も、株主・投資家の皆さまとより一層のコミュニケーションが図れるよう、分かりやすい資料の作成などを心がけ、業務に取り組んでまいります。



経理部 財務課 石川 真吾

IR（投資家向け広報）活動

● 目的

当社では、以下の基本方針に基づき、IR活動に取り組んでいます。

- ①株主・投資家の当社に対する理解を深め、適正な企業評価を得る。
- ②投資判断に必要な情報を適時、公平に、継続的に提供し、信頼関係を構築する。
- ③株主・投資家との双方向のコミュニケーションを通じて、市場の評価や意見を経営にフィードバックする機会を得ることで、経営の質的向上に資する。

● 活動状況

機関投資家・アナリストの皆さまを対象とした決算説明会、県内個人投資家向け会社説明会を開催しているほか、より多くの声を事業活動に反映させるために、経営層による株主・機関投資家・アナリストの皆さまへの直接訪問も展開しています。また当社ホームページにおいて、説明会資料、経営計画、財務情報を掲載するなど、さまざまな情報発信に努めています。

[Webトップ](#) ▶ [株主・投資家の皆さまへ](#) ▶ [IR資料室](#)

● 2015年度実績

- ・決算説明会：第2四半期、期末の年2回の開催、各会約60名が出席
- ・アナリスト向け小規模ミーティング：8名が出席
- ・県内個人投資家向け会社説明会：約90名が出席
- ・訪問活動：国内3回（20社）、国外1回（1社）計21社を訪問
- ・その他：電話インタビューや施設見学などを実施

機関投資家向け期末決算説明会を開催

IR活動の一環として、2016年5月18日（水）東京都大手町のファーストスクエアカンファレンスにおいて、証券会社・機関投資家などのアナリストおよびファンドマネージャーを対象とした「平成27年度期末決算説明会」を開催し、56名の参加がありました。

説明会では、県経済の動向や沖電グループの中長期成長戦略、株式分割の実施などを含めた経営の概況や、平成27年度決算の概要について説明を行いました。

なお、同説明会は2002年3月に東京証券取引所市場第一部へ上場して以来、第2四半期と期末の毎年2回開催しています。



▲説明会での大嶺社長

● 取引先との関わり

当社は、当社と取引先の双方が法令・社会的規範を遵守し、相互信頼関係を確立することを重視しつつ、電力設備の最適な構築・維持・運用に向け、安全性・品質に優れた資機材の調達に取り組んでいます。

資機材調達

当社は、お客さまに良質な電気を安定的に供給するための発電所の建設や、電力流通設備の拡充、改良工事などにあたり、製品の品質、安全性など良質で経済的な資機材調達をするよう心がけるとともに、良好な取引関係を構築しています。

資機材の調達計画については、取引先との良好な関係の構築、資機材の安定調達のため、年度初めにホームページおよび資材部窓口にて公表しています。

[Webトップ](#) ▶ [サービス・ビジネス情報](#)
▶ [資機材調達情報](#)

調達の基本方針

1. オープンな調達

良質で経済的な製品を調達するために、国内外の企業に対し幅広く門戸を開いています。

2. 公平・公正・透明性の確保

取引先の選定にあたっては、製品の品質や安全性などを総合的に勘案し、公正に選定を行い透明性のある調達に努めるべきであると考えます。

3. 法令・社会規範の遵守

購買取引にあたって、当社と取引先の双方がすべての関連法令ならびにその精神、社会規範を遵守すべきであると考えます。

4. 相互信頼・互恵関係の確立

当社と取引先との信頼関係を確立し、相互協力による互いの価値実現を図ることが重要であると考えます。

5. 地域・社会への貢献

当社と取引先が、購買取引を通して、ともに地域社会に貢献する良きパートナーとなるべきであると考えます。

6. 安全・品質の確保

安全を最優先し、関係法令を遵守するとともに、労働災害の防止、公衆安全・衛生の確保に努めつつ、購入する資機材・サービスの品質を確保することが必要と考えます。

7. 地球環境への配慮

環境負荷の少ない資機材の優先購入（グリーン購入）を推進し、取引先と協力して資源循環型社会の形成に努めるべきであると考えます。

社員の声

良質で経済的な製品の調達を目指して

購買課では、製品の品質、信頼性、安全性など良質で経済的な資機材調達をする

とともに、当社と取引先の双方が法令・社会的規範を遵守し、相互に信頼関係を築いていけるような取引を心がけています。

今後も、共同調達などの発注方法の工夫や、国内・国外を含めた調達先の拡大により、良質で経済的な資機材の調達に努めてまいります。

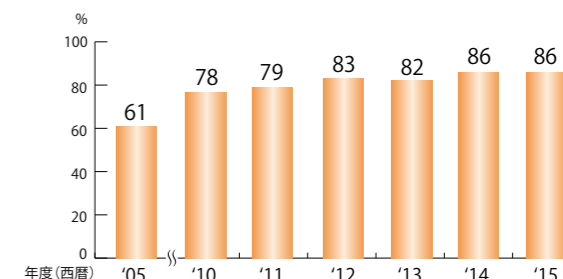


資材部 購買課 伊福 正義

● グリーン購入（事務用品など）G

グリーン購入率

沖電グループで使用する事務用品、OA機器などについて、「グリーン購入要領」に基づき、環境に配慮した製品の購入を積極的に推進しています。



グリーン購入の対象

- | | | |
|----------|----------|------------|
| (1) 紙類 | (2) 文具類 | (3) オフィス家具 |
| (4) OA機器 | (5) 家電製品 | (6) 照明器具 |

● 従業員との関わり

当社は、従業員の安全と心身の健康を確保するとともに、仕事と生活の調和を図り、意欲と夢をもって働くことができる職場環境づくりを推進しています。

教育研修制度

当社は、持続的な成長・発展のためには社員力の向上が不可欠であるという観点から「人材育成計画」に基づいて教育・研修制度を実施しています。

社内における職位別に開催する階層別研修、それぞれの職種のスキルアップを図る部門研修、語学講座や海外留学など国際的な感覚を身につけるための特別研修、自己啓発への支援など、さまざまな研修メニューや制度により、新入社員から管理職までがキャリアアップを図り、専門性の確立やスキル向上に取り組んでいます。

1. 階層別研修

- ・ **新入社員研修**：導入研修(ビジネスマナー研修・社会人基礎教育、他)/現場実習
- ・ **一般社員研修**：2年目社員研修
- ・ **中堅社員研修**：新任副主任研修/新任主任研修/キャリア開発研修30
- ・ **管理職研修**：新任管理職研修/新任経営管理職研修/中堅経営管理職研修/経営マネジメント研修/部下指導育成研修/計数管理研修/OJTスキル習得研修

2. 部門研修

- ・ **自部門開発研修**(各部門で開発し実施する研修)
- ・ **派遣研修**：社外派遣研修/国内長期派遣研修/海外短期派遣研修/海外長期派遣研修

3. 特別研修

- ・ **派遣研修**：県内派遣研修/海外派遣研修
- ・ **課題別研修**：コミュニケーション能力開発研修/報告説明力向上研修/ロジカルシンキング研修/クレーム対応力強化研修/インストラクター実践研修/ファン客創造を考える研修会

4. 自己啓発

- ・ 語学講座・基地内大学
- ・ 通信教育・TOEIC受験

育児と介護への支援

● 育児への支援

子育てに携わる社員が働きやすい環境を作るため、以下のような取り組みを行っています。

1. 育児休業制度

対象となる子が満2歳に達するまでの間(最長1年6カ月)取得することができます。

[実績] 2014年度：38名、2015年度：36名

2. 育児時間

生後1年未満の乳児を育てる女性社員は、休憩時間のほかに1日2回それぞれ30分の育児時間を取得することができます。

[実績] 2014年度：4名、2015年度：3名

3. 育児短時間制度

社員が養育する子どもが、小学校1年生の年度末に達するまでの間について、1日の勤務時間を最大1時間40分に限り短縮することができます。

[実績] 2014年度：42名、2015年度：41名

4. 子の看護休暇制度

社員が養育する中学校就学前の子どもが疾病・負傷した場合、子の看護休暇を取得することができます。取得できる日数は対象となる子の数に応じて変わり、1人の場合は1年度につき5日、2人以上の場合は1年度につき10日となります。

[実績] 2014年度：190名、2015年度：201名

5. 次世代育成計画の策定・実施

社員の仕事と子育ての両立支援と、健康で豊かな生活のための時間確保支援など、社員が働きやすい職場環境をつくるために、次世代育成対策支援促進法に基づき、次世代育成計画を策定・実施しています。

● 介護への支援

家族の介護に携わる社員が働きやすい環境を作るため、以下のような取り組みを行っています。

1. 介護休業制度

要介護者1名につき最長1年間取得することができます。

[実績] 2014年度：1名、2015年度：1名

2. 介護短時間制度

介護を要する家族がいる社員は、1年以内の期間で1日の勤務時間を2時間に限り短縮することができます。

[実績] 2014・2015年度：0名

3. 介護休暇制度

対象者(社員の配偶者、父母、子、祖父母、兄弟姉妹および孫)が要介護状態となった場合、介護休暇を取得することができます。取得できる日数は要介護者の数に応じて変わり、1人の場合1年度につき5日、2人以上の場合は1年度につき10日となります。

[実績] 2014年度：1名、2015年度：4名

社員の声

育児短時間制度を利用して育児参加!

妻の育児休業からの復帰を機に、育児短時間制度を利用して、朝30分の短時間を取得しています。子供達を保育園等へ送ってからの出勤となりますが、気持ちにゆとりを持って出勤することができています。僅かですが育児に参加することで、働く女性の育児・仕事・家事の両立の大変さについて理解が深まりました。このような貴重な経験ができていのも職場の理解・協力のおかげであり、深く感謝しております。



事業開発部 塚本 真之

学生生活に配慮した選考・採用に関するガイドラインについて

採用選考については、一般社団法人日本経済団体連合会が発表している「大学卒業予定者・大学院修士課程修了予定者等の採用選考に関する企業の倫理憲章」および「採用選考に関する指針」に賛同し、学生の就職機会の公平・均等が保たれる選考活動が実施できるように努めています。

障がい者雇用

障がいのある方へ雇用の場を提供し、社会参加を支援するため障がい者雇用に取り組んでおり、法の定める障がい者雇用率の2.0%を満たしています。

高齢者雇用

高齢者雇用への社会的要請の高まりと、定年退職者の豊富な知識や経験の活用を図るため、再雇用嘱託制度を設けています。2015年度末時点で7名の定年退職者が本制度を利用して勤務しています。

ボランティア活動への支援

社員がボランティア活動に積極的に取り組める環境を作るため、ボランティア休暇制度を設け、社員が社内規定に該当する社会福祉活動や地域活動をする際、1年度につき4日のボランティア休暇を取得することができます。

[実績] 2014年度：23名、2015年度：23名

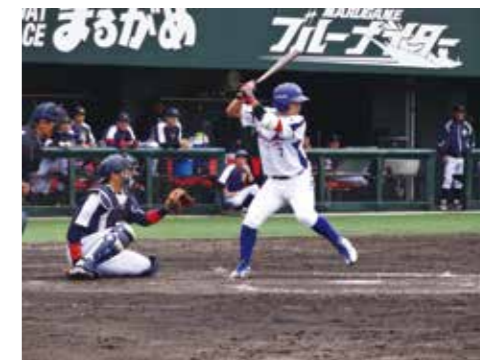
シンボルスポーツの取り組み

当社では2001年より硬式野球部をシンボルスポーツとして位置づけています。シンボルスポーツである硬式野球部を応援することが、従業員の「連帯感の醸成」、「士気高揚」につながり、活力ある職場づくりに寄与しています。

Webトップ ▶ 会社情報 ▶ 沖縄電力硬式野球部

● 主な出場大会

- (県外) 都市対抗野球大会
社会人野球日本選手権大会
- (県内) 石川蓬篤杯争奪硬式野球大会
RBC杯争奪硬式野球大会



ハラスメントに関するガイドラインの設定

職場におけるセクシュアルハラスメントに関する取扱規程を定め、セクシュアルハラスメントが発生した場合に適切に対処するため相談窓口を設けています。

労使間のコミュニケーションに係る取り組み

円滑な労使関係を確立し、事業の健全な発展を期することを労使の共通認識として以下の取り組みを行っています。

- (1) 社員の組合加入
労使間の労働協約に基づき、社員は労働組合に加入するよう定めています(ユニオンショップ制)。
- (2) 情報交換会の開催
労働協約に基づく会議体以外に、情報交換会を開催しています。
- (3) 時間外労働について
時間外・休日労働ができる時間について、労働組合と協定を締結しています。

社員の声 海外派遣研修

米国クレアモント大学ドラッグスクールオブマネージメント経営学修士課程(MBA)



▲クラスメイトのみならず(左端が当社社員)

企画部 経営企画課 金城 清猛

発電所建設業務に携わる中、技術系社員であってもコスト意識や適切なマネージメントがとても重要だと感じる機会が多かったことから海外でのMBA取得にチャレンジしました。

2年間の留学を通して学んだことは、世界のビジネス常識を共有できたこと、多様な価値観を受け入れられるようになったことなどがあげられます。

世界中から集まったクラスメイト達と英語を通し様々な経験が出来たことは、貴重な人生の財産となりました。

ステークホルダーとの対話

皆さまとの双方向コミュニケーションを通して、皆さまの視点から企業価値の向上を図るとともに、社会の持続的発展に寄与してまいります。

【オピニオンリーダーとの意見交換会】

地域のオピニオンリーダーと当社役員が直接意見を交換する機会を設け、当社の事業内容や経営活動などについての理解を深めていただいています。皆さまからいただいた貴重なご意見やご要望については、事業運営の参考にさせていただきます。



▲沖縄県婦人連合会との意見交換会の様子

【参加者からのご意見】

「電気の安全な使い方」や「オール電化」についての説明や、事業全般にわたる意見交換をさせていただき、有意義な意見交換会だった。今後も継続的に実施してほしい。

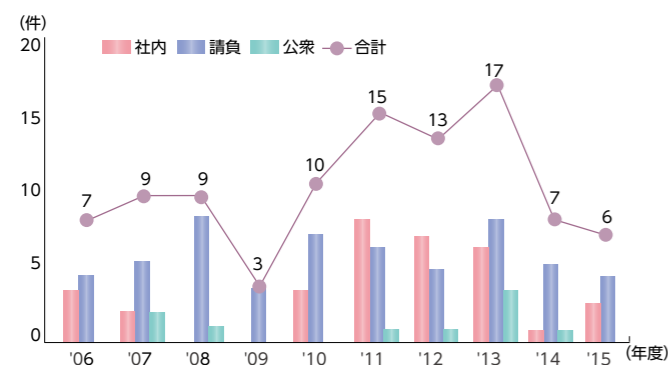
安全衛生への取り組み G

沖縄電力では、従業員の安全と心身の健康を確保するとともに、働きやすい職場環境づくりを促進するための「2016年度安全衛生管理目標」を定め、経営トップから従業員一人ひとりにいたるまで、管理目標の達成に向け全社をあげて安全衛生施策を展開しています。

●2016年度安全衛生管理目標

1. 労使一体となって、電気事業関連で働く全ての仲間に対する、更なる安全文化の浸透及び安全確認と安全管理の徹底に取り組み、労働災害の未然防止を図る。
2. メンタルヘルス不調者の発生予防及び生活習慣病の予防に向けて、従業員は自らの健康づくりに主体的に取り組み、会社は健康推進施策を通じてそれを支援する。
3. 働きやすい職場環境づくりを促進する。

●労働災害の推移(2006年度～2015年度)



〈用語の説明〉

- (1) 社内：業務上（通勤途上除く）発生した当社社員（嘱託、出向者、臨時雇用者を含む）の人身災害をいう。
- (2) 請負：当社の構内および当該工事区域内において当社請負業務（委託業務を含む）を遂行中発生した請負委託業者の人身災害で不慮災害を除く。
- (3) 公衆：当社施設および機器・材料に関連して発生した公衆の人身災害と当社社員（嘱託、出向者、臨時雇用者を含む）が業務遂行中に公衆へ及ぼした人身災害をいう。

おきでんこころの健康づくり計画 G 【2012～2016年度】の推進

当社では、全ての従業員が心身ともに健康で、働きがい、生きがいをもって社会生活が営めることを目的に、厚生労働省が定めた「労働者の心の健康の保持増進のための指針」を基本に「おきでんこころの健康づくり計画【2012～2016年度】」を作成しました。

その取り組みの一つとして、当社メンタルヘルス医を講師に全従業員を対象にしたメンタルヘルセルフケア研修、新任係長・新任管理職を対象にしたメンタルヘルスラインケア研修などを実施しております。2015年度に開催したセルフケア研修では、ストレスへの気づきとその対処法及び自発的な健康相談といった心身疾患の予防に必要なスキルの習得を図り、ラインケア研修では、管理監督者としての責任と役割について理解を深め、具体的事例やシミュレーションを通じてスキルアップを図りました。

今後もこれらのメンタルヘルス対策を積極的に推進し、こころの健康づくりおよび活気のある職場づくりに取り組んでいきます。



▲メンタルヘルス研修の様子

生活習慣病総合対策5ヵ年計画 G 【2012～2016年度】の推進

当社では、生活習慣病予防と有所見率低下を目的に「生活習慣病総合対策5ヵ年計画【2012～2016年度】」を作成し、定期健康診断結果に基づく保健指導、肥満外来への受診勧奨、肥満改善に関する健康情報発信等、従業員の健康づくりを継続的に支援しています。

その取り組みの一つとして、2015年度は、全従業員を対象に生活改善及び運動習慣に関する健康づくりの動機づけを目的とした、ウォーキングイベント「おきでんGO!GO!ヘルスウォーキング」を開催しました。

今後もこれらの生活習慣病予防対策を積極的に推進し、従業員の健康づくりに取り組んでいきます。

第39回中央安全衛生大会の開催 G

沖電グループでは、全社一丸となって安全の確保と労働災害の未然防止を図り、働きやすい職場環境の促進に向けて邁進していくことを再確認するため、毎年4月に中央安全衛生大会を開催しています。今年も沖電グループ・協力会社役員約200名が参加する中、安全衛生管理方針を確認し、管理目標達成のための『大会宣言』の採択を行いました。

「安全」は経営の根幹であり、働く者の安全と健康確保が何よりも優先されることを強く認識し、これまで以上に労使が一体となって労働安全衛生活動を実効的に運用していきます。

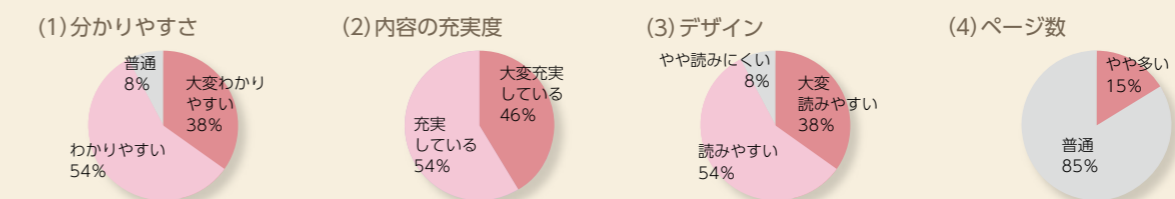


▲中央安全衛生大会の様子

CSRレポート2015 アンケート集約結果

CSRレポートのアンケートにより、皆さまからのご意見・ご要望をお聞きしながら、今後のCSR活動や報告書の改善・充実に努めていきます。

●CSRレポート2015アンケート集約結果



【主なご意見・ご感想】

- ・初めて沖縄電力のCSRを読み、内容がとても充実しており、読みやすいと思いました。特に地域社会との関わりの項目が楽しく感じました。沖縄電力という社名だけを聞くと、電気を作り届けるといったイメージしかありませんが、この項目にはハーリーやコンサート、家族での清掃活動など、地域との関わりという違った視点から沖縄電力のことが知ることができました。
⇒ありがとうございます。読みやすいといただき大変嬉しく思います。当社のCSR活動について、今後もより分かりやすく皆さまにお伝えできるよう、内容の充実に努めてまいります。
- ・低風圧電線や高圧引下ケーブルなど、御社がどれだけ台風対策に力を入れているかが分かり、驚いたのと同時に感謝の気持ち湧きました。台風時には御社のサービスを活用して、台風被害を防ぎたいと思います。
⇒ありがとうございます。当社ホームページでは、台風や非常災害時に停電した際の停電情報地図情報サービスやメール配信等サービスに加え、台風や非常災害以外の通常時に発生した停電情報につきましても掲載しておりますので、ご活用いただくと幸いです。今後もお客さまのご不便やご不安を少しでも軽減できるよう、一層のお客さまサービスの向上に努めてまいります。

Webトップ ▶ 停電情報